

河北新報のニュースサイト・コルネット

宮城のニュース

広瀬川が原点 アート競演 伏流水使う酒蔵会場・19日から



展示会の打ち合わせをする(左から)佐藤さん、森さん、村山さん、古山さん = 仙台市若林区の森民酒造本家

川砂で作った酒器、さわやかな川面を描いた水彩画。「広瀬川」をテーマとした展示会「廣瀬(ひろせ)川美術蔵」が19～23日、仙台市若林区の森民酒造本家で開かれる。会場は伏流水を使って日本酒を仕込む築160年の酒蔵。主催者は「仙台を象徴する川の魅力を再発見してほしい」と来場を呼び掛けている。

ガラス作家村山耕二さん(42) = 太白区 = の鉢やグラス、画家古山拓さん(46) = 青葉区 = の水彩画、染織家佐藤江里さん(58) = 泉区 = の帯など70点余りを展示する。

村山さんは2007年以降、「仙台ガラス」の復元に挑戦している。江戸時代後期、仙台藩で制作されていたが、継承者がいなくなり、製法などは分かっていなかった。村山さんは霊屋下周辺の砂にアルカリ化合物を混ぜ、1400度で熱して琥珀(こはく)色のグラスや皿などを作った。

広瀬川を数多くスケッチしている古山さんと共同で展示会を計画していたところ、川などをモチーフに草木染を手掛ける佐藤さんと知り合い、お互いの原点である川を主題にした。

「広瀬川が放つ多面的な魅力を味わってほしい」と村山さん。森民酒造本家の森徳英社長(39)は「酒の仕込みが始まる前で、酒蔵を活用するのに適した時期。日本酒を見直してもらい、いい機会にもなる」と酒蔵の開放を快諾した。

開場は午前10時～午後6時(最終日は午後3時まで)。展示会に合わせ、純米大吟醸と村山さんの酒器などを組み合わせた「美術蔵セット」(8万円)を20組販売する。

会期中は食品販売店「三陸おさかな倶楽部(くらぶ)」(青葉区)による海鮮バーベキューも提供する。食べ放題で2000円。連絡先は森民酒造本家022(266)2064。

2009年09月05日土曜日

Copyright © The Kahoku Shimpō